

高浜発電所 1号機の出力降下について

2024年1月22日

関西電力株式会社

高浜発電所 1号機は定格熱出力一定運転中（加圧水型軽水炉 定格電気出力 82万6千キロワット、定格熱出力 244万キロワット）のところ、1月21日 23時25分頃に巡回点検を行っていた運転員が、タービン建屋 1FにあるB給水ブースタポンプ※¹入口配管（2次系）の一部から僅かな蒸気漏れを確認しました。

漏えい発見時は、3台ある給水ブースタポンプの内2台が運転中（A・B）でしたが、1月22日 0時46分に待機中のC給水ブースタポンプを起動し、1時29分にB給水ブースタポンプを停止しました。

3時00分に漏えい箇所を系統から隔離し、周辺温度が十分に低下したことを確認したうえで、当該部配管の点検調査を開始することとしていました。その後、運転員が運転中の給水ブースタポンプ2台の状態を点検していたところ、5時00分頃にA給水ブースタポンプのグランド部※²から堰内への2次系冷却水の漏えい量が通常よりも多いことを確認しました。点検の結果、現時点でプラントの運転状態には問題ないものの、今後の運転に万全を期すため、当該ポンプを停止した上でグランド部の点検等を行うこととしました。

このため、電気出力を40%まで負荷降下を行うこととし、9時頃から負荷降下を開始します。

本事象による環境への放射能の影響はありません。

※1：主給水ポンプの吸込みを補助するために設置している装置。

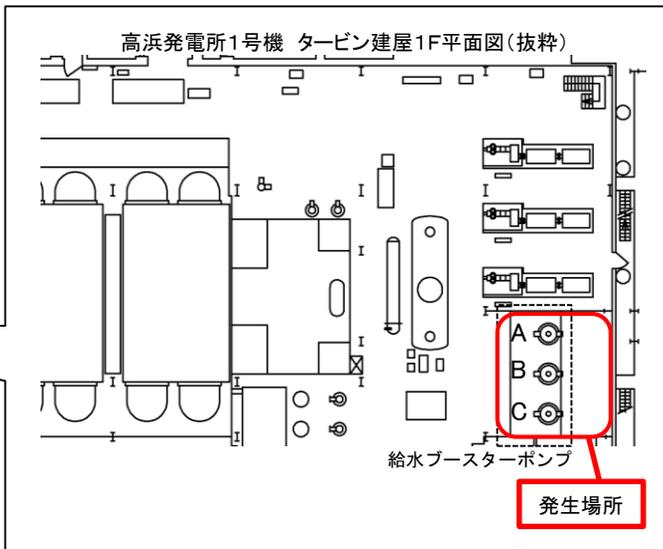
※2：ポンプの軸シール部であり、内部流体が、回転軸の貫通部から外部に漏えいしないよう封じている。

以 上

高浜発電所1号機の実力低下について

事象概要

<発生場所>



<系統図>

